2026年11月10日

各　　位

会社名　青山商事株式会社
代表者名　代表取締役社長兼
執行役員社長兼　遠藤　泰三
OMOリテール本部長
（コード番号 8219　東証プライム市場）
問合せ先　取締役兼専務執行役員　小川　誠
（TEL　084－920－0050）

2027年3月期第2四半期（中間期）の業績予想値と実績値との差異及び通期業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、2026年5月12日に公表いたしました、2027年3月期第2四半期（中間期）の業績予想値と本日公表の実績値に差異が生じましたので、お知らせいたします。

あわせて、通期業績予想につきまして、下記のとおり修正いたしましたので、お知らせいたします。

記

1．業績予想値と実績値との差異について

（1）2027年3月期第2四半期（中間期）連結業績予想値と実績値との差異
（2026年4月1日～2026年9月30日）

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する中間純利益	1株当たり中間純利益
前回発表予想（A）	84,200	100	100	△1,200	△8円45銭
実績値（B）	83,270	135	91	△995	△7円01銭
増減額（B－A）	△929	35	△8	204	―
増減率（%）	△1.1	35.3	△8.5	―	―
（ご参考）前期第2四半期実績（2026年3月期第2四半期）	81,973	77	297	△856	△5円88銭

（2）2027年3月期第2四半期（中間期）個別業績予想値と実績値との差異
（2026年4月1日～2026年9月30日）

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	中間純利益	1株当たり中間純利益
前回発表予想（A）	50,100	△2,400	△600	△900	△6円34銭
実績値（B）	48,891	△2,443	△695	△842	△5円94銭
増減額（B－A）	△1,208	△43	△95	57	―
増減率（%）	△2.4	―	―	―	―
（ご参考）前期第2四半期実績（2026年3月期第2四半期）	49,018	△2,224	△363	△563	△3円87銭

（注）当社は、2026年4月1日付で普通株式1株につき3株の割合で株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、「1株当たり中間純利益」を算定しております。

２．業績予想の修正について

（１）2027 年３月期通期連結業績予想値の修正（2026 年４月１日～2027 年３月 31 日）

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	１株当たり当期純利益
前回発表予想（A）	194,700	11,700	11,900	7,600	53円54銭
今回修正予想（B）	194,700	11,700	11,900	7,000	49円30銭
増減額（B－A）	―	―	―	△600	―
増減率（%）	―	―	―	△7.9	―
（ご参考）前期実績（2026 年３月期）	189,011	10,588	10,919	6,918	47円95銭

（２）2027 年３月期通期個別業績予想値の修正（2026 年４月１日～2027 年３月 31 日）

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	１株当たり当期純利益
前回発表予想（A）	124,800	6,000	7,800	5,700	40円16銭
今回修正予想（B）	123,600	6,000	7,800	4,800	33円80銭
増減額（B－A）	△1,200	―	―	△900	―
増減率（%）	△1.0	―	―	△15.8	―
（ご参考）前期実績（2026 年３月期）	122,169	5,501	7,439	5,122	35円50銭

（注）当社は、2026 年４月１日付で普通株式１株につき３株の割合で株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、「１株当たり当期純利益」を算定しております。

３．業績予想値と実績値との差異及び業績予想の修正の理由

＜第２四半期（中間期）＞

個別（青山商事(株)）において、「みんなのスーツ」やオーダースーツが好調に推移したものの、６月の低気温・悪天候による集客の伸び悩みなどから、売上高は前回発表予想を下回りました。一方で、セール抑制や割引ルール見直しによる売上総利益率の改善、経費の効率的な使用により、営業利益及び経常利益は概ね前回発表予想どおりとなりました。また、特別損失として減損損失等が予想を上回ったものの、法人税等が予想を下回ったことなどから、中間純利益は前回発表予想を上回る結果となりました。

連結におきましては、主に個別の理由により、売上高は前回発表予想を下回り、営業利益及び経常利益は概ね前回発表予想どおりとなったものの、親会社株主に帰属する中間純利益は前回発表予想を上回る結果となりました。

＜通期＞

個別（青山商事(株)）において、売上高は第２四半期（中間期）の実績が予想を下回ったことから、通期では前回発表予想を下回り、営業利益、経常利益については前回発表予想どおりと見込んでおります。また、特別損失において、第２四半期（中間期）の傾向を鑑み、一部店舗の将来計画を保守的に精査する中で、下期の減損損失等が前回予想を上回る見通しとなったことから、当期純利益につきましては、前回発表予想を下回る見込みであります。

連結におきましては、連結売上高については、個別が前回予想を下回るものの、フランチャイジー事業等が前回予想を上回る見込みであることなどから、前回発表予想を維持いたします。連結営業利益及び連結経常利益は前回発表予想を維持し、親会社株主に帰属する当期純利益については、主に個別の理由により、前回発表予想を下回る見込みであります。

なお、今回の業績予想の修正に伴う配当予想の修正はありません。

（参考）青山商事(株)ビジネスウェア事業　2027 年３月期　既存店売上高前期比の前提

上期実績 100.2%、下期の前提は 101.5%、通期 101.0%であります。

（前回発表予想前提：上期 102.0%、下期 101.5%、通期 101.7%）

※ 上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績等は今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

以　上